

第4学年 国語科学習指導案		授業者	場所	4年教室
単元名	単元名 場面の様子をくらべて読み、感想を書こう 教材名 「一つの花」		本時	5 / 8
ねらい	父が戦争に行く別れの場面で、父の言葉を読み取ることを通して、ゆみ子に「一つの花」を渡した理由を考えることができる。			
過程	本時の展開			
	学習内容	指導・援助 ※評価規準		
つかむ (5)	1 これまでの学習を振り返る ・お父さんが戦争に行かなければならない別れの場面 ・大切なお米で作ったおにぎりを全部ゆみ子にあげてしまったのは、父に泣き顔を見せたくなかったから。		・掲示物を用いて前時の場면을振り返る。出征していく他の人たちと、ゆみ子たち家族の様子の違いをおさえる。	
	2 本時の場面を確認し、範読をする。		・本時の場面の音読は、3分前学習として授業前に行う。	
考える (10)	3 本時の課題を確認する お父さんが食べ物ではなく「一つの花」をゆみ子にわたしたのはなぜだろう。		・前時や本時の場面からしか考えられていない児童には、2場面の、父が高い高いをした場面での父の思いを振り返らせる。	
	4 個人追究ををし、全体交流をする。 ・ゆみ子を泣き止ませたかったから。 ・食べ物はもうなくなってしまったから。 ・コスモスの花を見つけたから。 ・泣き顔を見て別れたくなかったから。		・お別れに花を渡した、という「父との別れ」を意識した発言があれば価値付け、それを基に、深めの発問へとつなげる。	
深める (20)	5 深めの発問をする ・「プラットホームのはしっぽの」「ごみすて場のような所に」「わすれられたように」咲いていたコスモスであることを確認する。 そんなところに咲いていたコスモスを「一つだけ」最後に渡すのはおかしいのではないか。何か、父の思い、願いが込められているのではないだろうか。		・父の言葉、コスモスが咲いていた場所を分かりやすく板書する。	
	「ゆみ。さあ、一つだけあげよう。一つだけのお花、大事にするんだよー。」というお父さんの言葉から、ゆみ子に大事にしてほしいものとは何だろう。		ゆみ子の「一つだけ」とお父さんの「一つだけ」は同じだろうか。 と補足する。	
まとめる (10)	6 対話をし、「一つの花」に対する考えを深める ・ゆみ子の命 人生 夢 希望 ・お父さんが言っている「一つだけ」はかけがえのないものという意味だと思う。 ・幸せに生きてほしいという父の願いが込められている。 ・一つしかない命を大切にしてほしいと思っている。 ・2場面で、ゆみ子の将来を心配していたから、命を大切に生きてほしいと思っている。		・仲間の多様な考えを知る対話活動を行う。 ・着目したい言葉をまとめたワークシートを用意し、対話の手がかりにする。 ・父が渡した「一つの花」は、父の最後のメッセージであることを全体で確認する。 ・最後に何も言わずに汽車に乗ってしまった、父の言葉を考える。 ・ゆみ子ではなく、「一つの花」を見つめて別れた父の思いに触れる。	
	7 本時で学習した内容をまとめる お父さんが「一つの花」をゆみ子にわたしたのは、どんなところでもたくましく、強く生きてほしい、かけがえのない命を大切にしてほしいというメッセージを伝えたかったからだと思う。だから、願いを込めた「一つの花」を見つめながら汽車に乗っていったのではないか。		※評価規準 父の行動や会話に着目して読み、「一つの花」に込められた父の気持ちについて考えている。 (C(1)エ)	

第4学年 「一つの花」 単元構造図
単元名 場面の様子をくらべて読み、感想を書こう

【単元の目標】

- ◎登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像することができる。
- 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。
- 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができる。
- 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。

【思C(1)エ】
【知(1)オ】
【思C(1)イ】
【思C(1)オ】

【評価基準】

- 【知】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。 <(1)オ>
- 【思】・「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。 <C(1)イ>
- ・「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像している。 <B(1)ウ>
- ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。 <C(1)オ>
- 【態】進んで登場人物の気持ちや性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像し、学習課題に沿って、物語の感想を書こうとしている。

【本単元で習得した資質・能力を活用する今後の学習】
4年「ごんぎつね」
・話し合っ、人物や物語に対する考えを深める。
5年「たずねびと」
・物語の全体像から考えたことを伝え合う。

【単元を貫く課題】
場面の様子をくらべて読み、感想を書こう。
【言語活動】
物語を読んで感想を書く。

【第3次】

- ⑧ 感想を読み合っ、おたがいの考え方や感じ方のちがいを見つけて伝え合おう。
- ・グループで感想文を発表し合っ、感想を伝え合う。 ・学級全体で感想を交流する。
- 〇〇さんの考えは、コスモスの花に対する考えが、わたしと違っているところがあった。

【第2次】

- ② ゆみ子が最初に覚えた言葉が「一つだけちょうだい」だったのはなぜだろう。
- ・物語の設定を確かめる。(登場人物、物語の設定、時代背景)
 - ・母の行動や会話から、戦時下の厳しい状況や母の心情を読み取る。
- 戦争中で食べ物がなく、いつもお腹をすかしているゆみ子に「一つだけー。」と言っていた母の言葉を覚えてしまった。
- ③ 「そんなとき、お父さんは、きまってゆみ子をめちゃくちゃに高い高いする」のはなぜだろう。
- ・ゆみ子の「一つだけ」を父や母はどんな思いで聞いているか、会話文から読み取る。
 - ・深いため息 そんなとき きまって めちゃくちゃに という言葉に着目し、父のゆみ子への愛情や将来を心配する気持ちを読み取る。
- ゆみ子は将来、多くの幸せを手にはできないのだろうか、と心配している。高い高いをして喜ばせるのは、今父ができる精一杯のことだった。
- ④ お母さんが、おにぎりをゆみ子に全部あげてしまったのはなぜだろう。
- ・防空頭巾、かばんに入っているもの、ばんざい、軍歌など、状況について補足説明をする。
 - ・出征する様子から、父との別れの場面であることに気付く。
- 戦争に行くお父さんのための大切なおにぎりだったが、ゆみ子との最後の別れになってしまうお父さんに、ゆみ子の泣き顔を見せたくなかったのが、「一つだけ」に込めてあげてしまった。
- ⑤ お父さんが、食べ物ではなく「一つの花」をゆみ子にわたしたのはなぜだろう。
- ・コスモスの花が咲いていた場所の描写から、家族が置かれている状況と対応させる。
 - ・ゆみ子が大事にしなければならない一つだけのものは何かを考える。
- どんな状況でもたくましく、生きてほしい、かけがえのない一つの命を大切にしてほしい、という父のゆみ子への最後のメッセージがコスモスの花に込められている。
- ⑥ 十年後の場面に「一つだけ」が出てこないのはなぜだろう。
- ・これまでの場面の戦争中の様子と、十年後の場面の様子を比較する。
 - ・「一つの花」という題名について考える。
- 戦争が終わり、平和な世の中になった。ゆみ子は一つだけちょうだいと言わなくても、食べられるようになっていて、コスモスの花がいっぱいになっている様子から、父はいなくても、父の愛に包まれて生きている様子がわかる。「一つの花」は、命を大切にし、たくましく生きてほしいという、父の最後のメッセージを表しているのではないか。
- ⑦ くわしく読んで考えが変わったところを中心に、感想をまとめよう。
- ・登場人物の行動や会話 ・題名から受ける印象 ・戦争中と戦争後の違いについて などの視点を提示する。
- 初めは、題名の意味はよくわからなかったけれど、平和な世の中になって、命を大切に生きてほしいという作者の願いを私たちに伝えるために、「一つの花」という題名にしたと思う。

【第1次】

- ① 初発の感想を書き、交流しよう。
- ・題名やリード文から、物語の内容について想像する。単元のめあてや学習の流れを確認する。
 - ・感想を書き、交流する。くり返し出てくる言葉「一つだけ」に着目させる。
 - ・難解語句や漢字を確かめる。作者について紹介する。
- 戦争中の様子が今と違うことがわかりました。ゆみ子がいつも「一つだけ」と言っているのが心に残った。

【ICTの活用】
・戦争中の様子がわかる写真、動画を見る。

【言語についての知識・理解・技能】
・語句調べ
・新出漢字の学習

【児童の実態】

本単元では、「一つだけ」というキーワードに着目させながら場面の移り変わりを読む学習を進めていく。「白いぼうし」では、言葉に着目することを大切に、疑問に思ったことを問いの形にして対話活動を行ってきた。自ら考えたいと思う「問い」であったため、自分の考えをもつことができる児童が多かったが、対話の中で、仲間の考えを取り入れ、深めていく姿勢にはまだ弱さが見られる。本単元でも対話活動を大切に、自分の考えを深めたり、友達との違いに気付いたりしながら、登場人物の気持ちを具体的に想像できるようにしていきたい。